

Title	教材「おにたのぼうし」研究(二〇一二年度卒業論文要旨集)
Author(s)	関川, 英里香
Citation	札幌国語研究, 18: 77-77
Issue Date	2013
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/7589
Rights	

教材「おにたのぼうし」研究

国語科教育学研究室 九四五三 関川英里香

本研究は、小学校国語科教科書における教材「おにたのぼうし」の、先行研究で指摘されてきた問題点の解決と、教材としての特質を明らかにすることを目的とした。そのために、第一に物語の分析を行い、教材としての主題を考察した。第二に教材化にあたり変更された点が起こす問題点について考察し、第三で物語の特質を明らかにすることを目指した。

結果として、教材としての「おにたのぼうし」の主題は「物事の本質を見ようとすることの大切さ」であると結論づけた。また、教材化による問題点、挿絵、心内語の表記、一文削除について以下のがわかった。挿絵は、「おにたのぼうし」を掲載している教科書の中で、大阪書籍の挿絵が、おにたの心情が変わる場面で挿絵を載せている点、語り手、おにた、女の子の全ての視点に立つ挿絵を採用している点で適していると考えた。心内語の表記は、おにたが直接口に出した言葉との違いを明らかにするためにも、絵本の表記が適していると考えられる。一文削除については、授業実践記録から削除されている児童の読みに大きく影響していないことがわかった。以上を通して、「おにたのぼうし」の教材としての特質は、物事の本質を見ようとするものの大切さに気付き、自分のものの見方や考え方、価値観を振り返ることができることだとまとめた。